



子育てチャンネル

「思い」を伝えるために

三月、少し春めいた日差しに包まれて、川岸の柳も赤みを増したように見える。学校勤めを終えて時間がゆっくりに過ぎるのを感じる中「思いを伝えること」について考えてみた。

「卒業式に思う」

三月は各学校で卒業式が行われる。学校の教育活動集大成としての卒業式、学校としても最大の行事である。

担任教師は、子ども達が迎える最後の一日にどんな思いを伝えようかと思索し、伝え方を工夫する。それは朝一番の黒板のメッセージであったり、最後のお話であったり、通信であったりする。校長もまた卒業式の式辞の中で思いを伝える。

私はかつて、卒業式の式辞で「自分の名前を大切に生きてよ」「みんなつながっている」「がんばることで道ができる」

「大切なものはみんな、ただ」とお話ししてきた。

「卒業の 子と離れいて 離れめ目」と俳句を紹介し、親の愛情を話したこともある。

どれも伝えたかったのは、「学校は常に卒業生の応援団。自分も回りの人も大切にして、目標に向かって進んでほしい」という思いである。

うなずきながら聞く

人は言葉で思いを伝える。だから、小さい子供のうちからきちんと思いを伝える話し方を教えたい。

「一を聞いて十を知る」との思いやりも重要だが、親が先回りして子供の話さえぎってしまつては、伝える力が育たない。多少忙しくても、手を止めて顔を見て、時間はかかっても終わりにまでうなずきながら聞く親でありたい。

最後まで話させること、最後まで聞いてやることは「良い子に育ててほしい」という親の思いを伝えることだと思つた。

親の思いを伝える良い手段として「本の読み聞かせ」をお勧めしたい。

寝る前のほんの少しの時間、読み聞かせしながら主人公の気持ちなどに重ねて親の気持ちを伝えるのは、子供に安心を与えられる良い方法と思う。風邪などで子供が寝込んだ時の読み聞かせなどは、さらに絶好の機会である。その上、子どもに人の話の聞き方や集中力を育てられる。

幸甚に存じます

言葉が人をつくるという。ていねいな言葉が話される環境で育つと、落ち着いた性格の子が育ち、乱暴な言葉が飛び交う世界で育てば考え方までも乱暴な子になるという。

子供がふさわしくない言葉を使うときは、言い直しが必要だし、当然私も大人の言葉も、時として反省が必要となる。穏

やかな会話がなされる家庭で、落ち着いてしっかりと考えることのできる子が育つてほしいと願つた。

過日、先輩から書画の作品展の案内をちようだいたした。文末に「ご覧いただければ幸甚に存じます」とあった。

あえて難しい言葉を使うのが良いわけではないが、「幸甚です」などという言葉が普通にお話する人の世界に、ちようとしたあこがれを抱くのは私だけだろうか。

人は生まれた時から死ぬまで、思いを伝えることの連続である。生まれてすぐには泣き声で思いを伝え、言葉をなくして死する時は、ただ手を握ることで思いを伝える。

より良い人と人との関係を築くために、言葉を大切にして思いを伝え、その言葉を大切にして思いを受け止める。そのことを忘れぬようにしたいと思つた。

前東川小学校長

奥山富雄